

変形性膝関節症の脛骨に併発した石灰化を伴った古い血管内乳頭状内皮過形成の一例

血管内乳頭状内皮過形成 (intravascular papillary endothelial hyperplasia: IPEH) は病理組織学的に血管内皮細胞の乳頭状増生を特徴とする反応性病変である。IPEH は頭頸部や四肢などの皮膚、皮下組織に好発し、口腔外科領域に発生した報告も散見されるが、骨での発生は非常に稀である。

症例は左膝関節痛を主訴とした 77 歳の男性である。膝関節レントゲンでは Kellgren-Laurence 分類 4 の変形性膝関節症と脛骨近位部内側の骨内に透過性の低下を伴う腫瘤性病変を認めていた。CT で左脛骨近位部腫瘤は限局性で辺縁は明瞭、内部には顆粒状の石灰化を伴っていた。術前診断として左変形性膝関節症、左脛骨近位部良性腫瘍 (内軟骨種、もしくは血管腫) と判断し、左人工膝関節全置換術と腫瘍搔破、切除が施行された。病理の結果、著明な石灰化を伴った稀な骨内の IPEH であった。

臨床所見からは骨内 IPEH を診断することは難しいため病理学的診断が重要であった。著明な石灰化病変を伴う骨内 IPEH の世界初の報告となった。骨内血管腫が石灰化をするのと同様に骨内 IPEH でも石灰化を伴う可能性が示唆された。